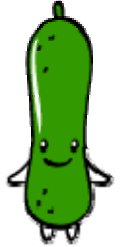


今朝は、大雨の中、移動サービスが大変でしたが今、帰ってきたところです。杖歩行の利用者が毎回家庭菜園へ草取りに行くために7時に迎えの予約を受けていましたが、6時に電話があり、大雨で中止するという電話がありました。ですが、7時にまた電話があり、菜園が浸水するので、水はけにいきたいということで、どしゃぶりの雨の中を合羽を着て、菜園へ同行しました。あげくの果て、水の排水作業を30分かけてやりました。お礼に泥まみれのキュウリをいただきました。



その方は、通院や買い物にも利用していただいておりますが、野菜を作るのも上手な80代の女性です。畑に肥料をやるのも手入れをするのも、お互い当たり前。畑の脇に「福祉有償運送」のステッカーを貼った車両が停まっているだけで、一見すると80代の母親と60代の息子が畑仕事をしているようにしか見えないかもしれません。田舎ならではの福祉有償運送の風景です。

私の住んでいる地域は人口6万弱の地域ですが、福祉有償運送者は、1団体だけです。それも、平成15年の許可から、現在まで活動団体が生まれません。福祉限定許可事業者は、その間に、8団体も誕生しました。そのうち、4団体から、移動サービスの開始時にはいろいろと相談を受け地域の移動支援や福祉有償運送の説明をしてきましたが、福祉限定輸送を選択されました。

どの事業者も、介護保険事業や自立支援事業を併用して行っています。移動サービスの利用者を、介護保険や自立支援のサービス利用者に限定したり優先したりしている様子です。

このような状況で、「地域でいきいきと生活するための移動の自由」の実現が本当に可能でしょうか？

(2010年7月 岡山県)